

若狭高等学校 1 年 1 組「現代の国語」学習指導案

期 日：令和 7 年 1 0 月 3 1 日（金）

時 間：1 4：1 0～1 5：0 0（第 6 校時）

会 場：1 年 1 組教室

授業者：福井 英之

授業参観の観点

「主体性をはぐくみ深い学びへとつながる指導と評価」

1 単元名

「書くこと」をとおして他者に自分の考えをわかりやすく提示しよう。

2 単元の目標

（１）[知識及び技能]の目標

情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うことができる。

[知識及び技能]（２）エ

（２）[思考力、判断力、表現力等]の目標

「書くこと」において自分の考えが的確に読み手に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を工夫することができる。

[思考力・判断力・表現力等] B（１）ウ

（３）[学びに向かう力、人間力等]の目標

筆者の意見を踏まえたうえで身の回りにあることに目を向け、自分の意見を形作ることができる。

3 本単元における言語活動と教材

（１）言語活動

本文と他の資料を読み、比較検討することで「共生」に関する考えを深め、書くことができる。

（２）教材

『高等学校 現代の国語』 現国 7 0 9 数研出版

「人と自然の共生とはどういうことか」

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使おうとしている。 (2) エ	自分の考えや事柄が明確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。 B (1) エ	他者の文章と自分自身の文章を読み比べて、自身の文章の表現等に活かそうとしている。

5 指導と評価の計画（全7単位時間）

次	時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「共生」について意見交流する。 ・本文を通読する。 ・現代における人と自然の関係の問題点を指摘する。 	[知識・技能]	机間巡視
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・人間が「反自然的存在」であることの理由を理解する。 ・「文化的共生」について、筆者の主張を読み取る。 	[思考・判断・表現力等]	記述の点検
2	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「共生」について書かれた4つの文章をグループ（3人～4人）で読む。 	[思考・判断・表現力等]	記述の点検
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章を対話を通して紹介しあう。 		
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・読んで（紹介しあって）一番印象に残る文章と本文を比較しながら、自身が考える「共生」とはどのようなものであるかを書く。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・前時で書いた文章をグループで読みあう。 		

3	6	・ワークシートに発表者それぞれの記述について気づきや感じたことを書く。 ・各グループで共有する。	[思考・判断・表現力等]	記述の点検
	7	・前時に学んだことをもとにリライトする。	[思考・判断・表現力等]	記述の点検

6 生徒について

1年1組は文理探究科である。授業内で読み取ったことについて他者と意見交流することは活発に話し合うことができる。しかし、その基礎となる文章読解の技術においては不十分な生徒も見受けられ、その向上が求められる。また一方で、自身の考えを書くことによって相手に過不足なく相手に伝達できる技能については総じて改善の余地がある。SNSの普及によって以前にも増して「書くこと」が身近な生活の一部になりつつある現在、より一層しっかりと自分の考えを他者に伝えることが求められる。そのためには自分の意見が何に依拠しているかをしっかり相手に伝える必要がある。本単元では環境に関する文章を扱っている。比較的身近な話題でもあり、様々なことを考えることが可能である。この単元をとおして自分自身の考えを相手に伝えるためにはどうすればよいか、文章表現の習得と合わせて、論拠を明確にして自分自身の考えを伝えるきっかけとしてほしい。

7 本時について（第 次第 時）

（1）本時の目標（第3次第6時）

グループのメンバーの発表を聞き、他者の文章から文章表現について学ぶ

（2）本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
導入 (5分)	・本時の授業の流れと目標の確認。 ・ワークシートの記入についての説明	他者の発表に際して、学んだことを書くよう促す。	
	・4人1組のグループに分かれてそれぞれの文章を読む。	google スライドを利用してそれぞれのグループに文章を入れる。	[主体的に学習に取り組む態度]

展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> ・読まれた文章に対して改善点、良かった点（自分が学ぶべき点）についてワークシートに記入する。 ・それぞれのグループで情報を共有しながら、伝わりやすい効果的な文章について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の文章に対して自身の文章に活かせる気づきの記入を促す。 ・どのような点をポイントとしているか、提示し話し合うよう喚起する。 	[思考・判断・表現力等] ○評価の方法 記述の点検 ○評価規準 他者の文章をとおしてどのようにすればより良い文章になるかを記述しているかを点検する。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で学んだことをもとに次時でリライトすることを述べる。 	

8 単元づくりのポイント

本単元のポイントは次の2点である。1点目は「書くこと」によって自分自身の考えを他者に提示することである。本教科書には様々な教材が掲載されている。しかし、私自身生徒の読解力不足を改善するために「読むこと」に力を注いでいる。そのため「書くこと」がおろそかになっている。大学入試において推薦入試を希望する生徒が一定数存在しており、小論文を課す大学も多い。小論文指導が行われる時期は、2年生の秋に入ってからである。「書くこと」になかなか慣れていない生徒にとって、数百文字を書ききらなければならない小論文は非常にハードルが高い。1年次から積極的に「書くこと」に慣れさせ、抵抗感をなくすきっかけとしたい。また、自分自身が書くのみならず、他者が書いたものから多くを学んでほしい。同年齢がどのように考えているか、どのように表現しているか、そのようなことから気づきをもとに学ぶことも多いはずである。

2点目は多くの文章を読むことである。教材からそのテーマにアプローチする際、どうしても該当教材中心の視点になりがちである。一つのテーマに対しても筆者が違えば様々なアプローチの仕方があることを学び、幅広いものの見方、考え方があることを知ってほしい。そのため、「共生」について書かれた文章をいくつか用意した。筆者の考え方を中心としつつ、他の著者の視点を取り入れることで自分自身の「共生」に対する考えも深めてほしい。ずである。様々な視点でとらえられた文章を参考にしつつ、自分自身の考えを深めることを課題とした。

9 授業者の振り返り